



ぼう お坊さんはなぜかみをそるの

かみをそるのは、お釈迦様（仏陀）に近づくための第一歩

お坊さんという、かみをそり、頭を丸めている姿を思い出しますね。かみそりでそるので、つるつる頭になっています。これをさして、頭を丸めるともいいますね。

かみをそり、頭を丸めることを、むずかしいことばで「ていはつ」といいます。ていはつは、さとりの境地に達するための第一歩なのです。さとりとは、仏教で、心の迷いがなくなって、正しい道理を知ることです。

お坊さんがていはつすることは、世の中のいろいろな欲望（煩惱という）から解放されるための、自分自身に対するいましめなのです。また、一般の人の住む社会と区別し、世の中のいろいろなゆうわくを、受けにくくするためのしるしでもあるのです。

お坊さんがていはつするのは、少しでも、お釈迦様の境地に近づきたいと願うからなのです。

お釈迦様がかみをそったので、まねをして

最初にていはつしたのは、お釈迦様なのです。お釈迦様が生きていたころのインドでは、かみをそるのは最大のはじとされていました。それは、重い罪をおかしたのに対するばつであったのです。そんな時代には、お釈迦様は、自分から進んでかみをそってしまったのです。それを見た弟子たちが、まねしてかみをそったのが、ていはつの始まりです。お釈迦様は、さまざまな欲望や苦しみなどからぬけ出し、落ち着いた、やすらかな気持ちになることを求めて、このようなことをしたのです。（監修・青木 国夫）

